明治四十二年十月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第六巻

第九號

要目

秋の啓示
神の生命の遠近
基督教的社會事業
基督以外の學校
基督教文學
日曜學校事業
メリイ・リイド（上）
秋
末期
心の花

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第六巻　第九號

目次

◎社説

秋の啓示

神の生命の遠近

宣教開始五十年祝會

丹羽清次郎氏を迎ふ

◎説苑

基督教的社會事業　小崎千代子

日本に於ける女學校の日曜學校　ミス、デフォレスト

◎史傳

望なき人の友メリイ・リイド（上）

◎文苑

秋

末期

◎心の花

◎聖書の研究

腓立比書

聖書の日課

◎女子青年界

基督教以外の學校に於ける事業

基督教文學

日本基督教女子青年會　本部の移轉

日本基督教女子青年會本部は東京市麹町區三番町四十一番地に移轉す

部數	定價（郵税共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

明治四十二年十月十四日印刷
明治四十二年十月十五日發行

發行兼編輯人　東京市麹町區三番町四十一番地　エー、シー、マクドナルド

印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎

印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第六巻第九號　（明治四十二年十月十五日）

秋の啓示

一年のうちの黄金時代とも云ふべき季節は來れり。籬の菊は開かんとす。コスモスは盛なり。空氣は透明にして日光日に親しむべし。五穀良く稔りて農家喜色多し。栗色なる栗の實、黄金色なる柿の實ともに累々として都の衢を彩れり。誰か秋を悲しと云ふや。愛する友よ、此の時を以て良く讀書し良く思ひ、靜に祈ることを怠ることなかれ。舊約聖書のハバコクの預言第二章三節にこれあり「此の默示はなほ定まれる時を俟ちてその終を急ぐなり」と。秋の啓示も亦終を急げり。楓葉霜に染みて錦を織るかと見れば又忙しく散り行く。一年清明の時節かくして終を急ぎつゝ過ぎ行く。すべて天地の善きもの、美はしきもの、風情あるもの其の來るや靜にして、其の進み行く跡尋ね難く、其の消ゆること速なり。心を澄まし情を深くし注意を濃にして天地の情に觸るゝことなくは心の田園荒れ易く、靈界の音樂終に君の耳に入ることなく終を急ぐならん。

然して此は我が身の上のみならず、人の身の上を思ふにも神を尋ね教を受け容るに適したる清明の秋は終を急ぎ易し。神よ我等の怠りを赦し給ふて道を傳へ人を神に導くに敏く且つ勤勉ならしめたまへ。

神の生命の遠近

パウロは信仰なき國民の狀態を描き出して「彼等心昏き者なり又知る所なきにより頑なるに因りて神の生命に遠かれり」（エペソ書五〇十八）と云へり。美しき山に近き流れ廣き川に近づくさへ快く思はるゝに、まして神の生命に近くことを得るならば如何に幸なることとなるぞ。之に反して神の生命に遠かるは暗き方、冷き方に近くなり。すべての不幸の根原なり、あらゆる墮落の眞相なり。故に見よパウロは次の節に於て直に神の生命より離れたる結果に說き及ぼせり。曰く「彼等は耻を知らず好んで總ての汚を行はんために己を放蕩にわたせり」と。

されど我等は先づ神の生命に遠かる原因としてパウロの擧る所を考へん。彼は先づ心昏く知ることなき一事を擧げたり。神を知るは即ち神の生命に近くの第一歩に外ならず。人は智識てふ懸橋を渡り、小さき自己を出てゝ大なる世界に接す。智識慾の寡き人はなべて內なる生命の活潑ならざる人なり。知識は生命の相結ばるゝを意味す。「蛇の道は蛇が知る」所以は兩の者の生命相繫がるゝ所あればなり。つまり知ると云ふことは人格全體の活動なりと知るべし。諸君のうち初めて都に

上られし人も多かるべし。知らず諸君大なる海の如き此の大都のうち何に諸君の注意を用ひ何によりて諸君の好奇心を喚起せられつゝあるか。うたかたの且つ消え且つ結ぶに似たる果敢なき影を逐ふて貴き生命の力を費さんとし給ふか、或は源遠く底深き生命の流に靈魂を浸さんとするか。自然界に美しき生命あり、歷史に源遠き生命あり、然れども更に深く清く美しき生命この宇宙の底に流るゝなり。さればヨハネ傳の首にこれあり「これに生命あり此の生命は人の光なり」と。神なるロゴスに生命あり。この生命に光あり、草木の生命太陽の光に觸れて活潑にせらるゝ如く、ロゴスの光に照らされて我等の生命は發動す。先づ此の如き生命なり光あるを知るを以て初むる。故にヨハネ傳に曰く『永遠の生命とは唯一の眞の神なる汝と其の遣したるイエス、キリストを知るこれなり』（十七〇三）と。されども我等思はざるべからず、ここに知ると云ふはたゞ書籍や人傳にて知るにあらで、深く思ふて味ひ知ることとなり。神は如何なる神にてあるかを知るに止らず、我につきての御心如何を知らざるべからず、淺きより深きに及ぼしつゝ、願くは我等の一生の歷史をして神を慕ひつゝ行く旅の記たらしめよ。

バウロが人をして神の生命に遠からしむる第二の理由として擧げたるものは頑なることなり、感覺の鋭敏を缺くことなり。文明は人をして鋭敏ならしむ。屢々神經過敏ならしむ。我等は舊時代の人の頑固を笑ひ、感覺の鋭敏なるを以て自ら誇る。然れども近世人には近世式の頑固なり。キリスト當時のサドカイ人は當時の文明人を以て自ら任じたりき。然れども靈的の事物に對し高尙なる道念に對しては感覺全く遲鈍にてありき。生活の戰の劇しきことや、現世主義個人主義は我等をして公義心、恥を知る心、感恩の念、罪の觀念未來の希望、神を畏るゝ念等の方面に頗る鈍くならしめたり。藝術の趣味さへも心せずんば人を頑固ならしむる危險なきにあらず。余輩は屢々その實例を見又學者の說に照して其の理あるを知る。我等は古の預言者の云ひし如く、石の心を取り去られて肉の心を與へられずば到底神の生命に近くこと能はず。

宣教開始五十年祝會

豫想以上の盛況を以て和氣靄々たるうちに終を告げぬ、日本の基督教の歷史は第二の半世紀に入れり。來らんとする半世紀に於て基督教の生命ともなるべき我等勉めざるべからず。殊に基督の敎が深く家庭の生活に根を下し果を結ぶ時來らずんば日本の基督敎は未だ堅固なりと云ふべからず。

丹羽清次郎氏を迎ふ

日本の基督教青年會を代表して英國及び獨逸に行かれたる丹羽清次郎氏は首尾よく使命を果たし米國を經て本月下旬を以て歸着せられんとす。我等は氏の勞を感謝するをともに氏が世界各國に於て經驗し見聞せられたる所のものにより大なる益を受け、我が國の敎化の爲め青年會事業のため益々力ある活動をせらるべきを信ず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

說　苑

基督教的社會事業

小崎千代子

秀麗なる風土と順和なる氣候の中に生息し、一祖同族より發達したる我が民族には、殆ど先天的に義に勇み善を好むの良習があり、儒教佛教の渡來するや、直に其主義を同化し、有形無形に少からざる現象を與へました。次て基督教傳はり新なる勢力の加はるや社會的事業は宗教的精神と結合せねばならぬ事を一層切實に感得しました。近く佐藤信綱の稱道せる經世濟民、二宮尊徳の述べ傳へし報徳の爲に養はれた國民の思想は更に著しき影響を受け、固有の仁慈、義俠なる精神は新なる形體を以て現はれ、各種の慈善事業は最近五十年間に於て著しき發達を見ました。今左に其概略を述べませう

一、救濟事業

我國に於ける救濟の事業は遠き建國の昔より種々の形體を以て現はれ、彼の悲田院、施藥院、義倉及び敬田院の如き、降て德川幕府の授産所、免囚保護、養生院等今日も倚ほ取て以て模範とすべきものが少くありません。而して基督教の渡來は此事業に一大進歩を見るに至りました。當局者の調査せる最近統計を基礎とし又我調査する所に依ると實に左の如き多數を計上らるゝを見るのである、

救恤に關する事業	九十二、
孤兒貧兒の救濟及び教養	百〇一、
施療施藥に關する事業	四十五、
不良少年感化事業	四十七、
免囚保護事業	三十七、
老年者及び扶養者なき者の救護	七、
細民の爲に授産授職等	十一、
特殊教育其他の諸項	二十二、

以上は各團體中專行のものもあり、二三種攝行のものもあれど、統計上別種として之を數へたものである。此外また世間に知られぬ慈善事業少くありますまい。これ元と右の手の爲したる事を左の手に知らしむる勿れてふ精神より出でたるものなれば、事實に於て更に多く計上せらるべきは勿論の事であります。

以上各種の事業は全然政府者の手によりて經營せらるゝもあり、半公半私なるもあり、全く個人或は私設團體の手によりてせらるゝものもあります。今之を概算するに其割合公は三にして私は七に當ります。又關係ありと認めらるゝ宗教を推測的に分類しますれば神儒道一、佛教三、基督教五、而して他の一は認むべき宗教なきものである。若し是等の研究をなし且其實蹟に就て調査し來らば將來の發展の上に少からぬ參考となる事がありませう。而して亦た今後更に努力すべく注意を怠てならぬは勞働者の幼兒保育及び教養の補助、特殊

敎育の普及と宗敎的精神の鼓吹特に幼年勞働者の救濟及び敎育醜業者の救濟、細民に衛生思想及普及の如き即ち之れにして我等婦人の特に留意せねばならぬ所であります。

二、矯風事業

古は暫く云はず、近世に至り七百年來持續せる武家制度の束縛一旦解放せられ、鎖國の舊夢破らるゝや、我國勢は俄然として一變化を來しました。其變化のあまりに急激であつたが故に、不幸歸趣に迷へる國民生じ、爲に徒らに物質上のみに趨せ、精神上將た風俗上に悲むべき傾向續發するに至るや、心ある者は之を慨し、之が爲に諸種の方法を講じました。彼の進德會、風俗改良會及び弘道會の如き諸團體起り、中には復古主義を稱道し、古の習俗に歸さんと欲するものさへ出てました。是等は何れも多少の稗益する所ありたれど、十中八九は遂に伸びずして止みました。中に就て最も世間の注意をひき年と倶に發展し斯界の一大勢力として着々効果を奏しつゝあるのは我が日本基督敎婦人矯風會であります。同會は明治十九年の設立にして其名の示す如く基督敎信仰の上に基礎を置きて目的の遂行に努め居ります。最近の報告に依るに同會支部は七十ヶ所にあり。現在會員約三千、其跡全國に及び、外に日本在留外國婦人矯風會があり、邦人の團體と協力して風俗矯正に努めて居ります、同會現在の分課は十八課にして、東京に本部を置きて之を統轄して居ります。同會の如何にして各方面に活動したか、又活動しつゝあるかは、世間の知悉する所なれば今は之を略しませう。

さて又同會の事業と共に必ず記せねばならぬのは、男子矯風會とも稱すべき日本禁酒會であります。同會は安藤太郎氏の統卒せる有力なる團體で、其目的禁酒にありますかなれども、關接に直接に社會風俗の改善に大なる影響を與へました事は世の等しく認むる所で、今や勢力、國內は勿論海外に迄發展し、兩々相並びて矯風會の重鎭となつて居ます。我等は基督敎婦人として此報告を爲すを喜びとし、且天父に謝せねばなりません。

今後の希望とし且つ努めんと欲する所は一にして盡さずと雖ども、我等多年の希望にして年に之が爲に努力し、未だ其目的を逹し得ない一夫一婦の制定、有婦の夫の犯罪の爲に法律一部の改正、醜業婦海外輸出の禁止の如き又廢娼の如き重大なる問題、不幸未だ解決を告けなければ、今後一層の努力を以て之に當り、且つ刻々起り來る時事問題は勿論苟も矯正すべき習俗に就て全心全力を致ん事を覺悟しつゝあります。

三、工場問題

我國工業の發展は男女職工の增加を來し二十名以上を使用せる工場に收容せるものゝみにても其數五十萬に及ぶが故に、實際に於ては更に大なる數を計へ上げねばなりますまい。而して其中七割即ち約四十萬は女子にして、三割即ち約十萬は男子であります。又た此七割の多數を占めつゝある女工の八割は紡績織物工場に收容せらるゝもので、他は煙草、燐寸、菓子、電工機、其他の工場に使用せらるゝものであります。我等の調査したる所を以てすれば、是等の女工中十歲以下の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幼年者少くありません。彼等は元より教育なく且つ識見ある筈もなければ、唯だ多くは工場主の命のまゝに勞働するが如きは孰れの方面より見ても到底看過せられぬ最大問題で殊に瀕々とし工場内風紀の紊亂、勞働の過度、衛生上の不完全等を報道せらるゝのである。殊に其女工雇入方法の如きに至つては殆ど全く詐欺的なるものがある。或は誘拐にひとしきものあります。世論も爲に喧しき事幾度なるを知りません。是等は未だ工場法案制定せられぬ故雇主たゞ利にのみこれ趨るの致す所で、遺憾此上もなき所であります。近來職工の爲に諸種の慰安機關、及び教育機關設備せらるゝを聞くと雖も、我等の實際の踏査によれば、遺憾ながら唯だ表面を糊塗するに過ぎないのであります。女工は爲に恩惠を蒙る事意外に僅少なるを悲まざるを得ません。我が婦人矯風會に於ては既に工女課を設け、救濟課、教育課等と呼應して可憐なる女工の爲に多少の努力を爲しつゝあります。思ふに此工場問題は今後新なる問題として大に研究せられざるべからざるものゝ一てありませう。

以上は救濟、矯風及び工場に關する報告及び意見の概要であります。要するに此種の事業の新發展後日尚淺きが故に多くは日沒して月未だ出でざる狀態にあるのであります。獨一の神を信じ同主義の下に活動する我等は與へられたる結合的事業に婦人相當の勤めを盡さんが爲に益々奮勵し且つ皇天の祐助を祈らねばなりません。

日本に於ける女學校の日曜學校

ミス、デフォレスト

全國を通じ教會若くは講義所に於ては、小兒の爲めに男女相提携して盡力しつゝあり。故に一般に於て日曜學校は男子の事業と女子の其れとを分つこと難し。

然れども日本に於て今日の如く日曜學校を有力ならしむるものゝうちにて、正當に女子の事業と見るべきは女學校の日曜學校なり。故に女學校が如何に日曜學校を經營しつゝあるかを考ふれば、一般の日曜學校問題及び其の成績を見ることを得ん。

先づ日曜學校は所謂宗教學校のみに限られたるにあらざることを注意せざる可らず。日本人の經營せる女學校、例へば梅花、同志社、共愛、山陽、女子英學塾等の如き女學校に於ても之に關係するもの多し。女子英學塾の如きは教師のうち八人、生徒二十二人が七ヶ所の日曜學校を教へつゝあり。大阪の梅花女學校は教師及び生徒合せて十二人五ヶ所の日曜學校を教へつゝあり。

四十ヶ所の公立高等女學校の教師若くは生徒によりて教育せらるゝ日曜學校三百三ヶ所あり。其のうち百七十三は全く此等の教師若くは生徒の手によりて經營せらるゝなり。而して此等の人々によりて教育せらるゝ小兒は一萬五千人を以て數へらるゝならん。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校の日曜學校事業に二種あり。一は敎會若くは講義所の日曜學校にして、多くは信者の子弟若くは之に緣故あるものゝ學ぶところなり他は隣家の小兒を集めて開く日曜學校にして或は女學校內に於て、或は一私人の宅に於て之を開くなり。神戶の如く基督敎の發達し居るところにても今尙ほ日曜學校に行けば磔に懸けらるべしと家人に恐喝せらるゝことなり。故に隣家の小兒を集る日曜學校は隨分困難なる事業なり。

女學校中十二の敎會若くは講義所の日曜學校に關係するは其最も多きものなり。東京の女子學院、仙臺の宮城女學校是れなり。隣人を集むる日曜學校を最も多く經營するは長崎の活水女學校にて、十四ケ所あり。兩種の日曜學校を合して云ふときは活水女學校最も多く、凡て二十ケ所に及ぶ。

（此所に其の經營せらるゝ有樣を述べられたれど略す）。

未だ受洗せざるものは其の敎師たる能はざるかとの問題起る。されど已に十分基督敎の實驗を積みたるものにして尙ほ家族が受洗を阻げ居るものあり。また未だ年若くして受洗に至らざれど基督を愛する情を幼子に現はさんと欲するものあり。如上の女學校の多數は未だ受洗せざるものを日曜學校の敎師に用ひず、只だ少數のみ之を用ゆ。されど其の心中は已に基督者たるものなり。

時として日曜學校の生徒が不從順なりしとて淚を吞んで歸る女學生もあり、又時として大いに成功せる喜びをなせるもあり。敎會又は女學校に於て師範科の設けられたるもあり。

大阪のウヰルミナ女學校に於ては日曜學校の第三年を敎ふる爲め三週間師範科に入る定めあり。而かも懸賞をも與ふることゝなり居れり。

敎科書として多くは萬國日曜學課を用ゆ。少なくとも其の幾分を用ゆ。日本日曜學校協會にて發行する敎科書が廣しく需用せらるゝを以ても之を察するを得ん。其の外の敎科書に由るものもあり、また自ら作るもあるなり。是れ日曜學校の狀態に適せしめんが爲めなり。

或る年若き敎師は日曜學校に於て何を敎ふるやと問はれたるに答へ「聖書」なりといへり。此は意味深き答へなり。英雄の譚や道德の話などをなす傾向に對抗するを要すればなり。師範科の必要は此に於て明かなり。聖書を十分に應用することを學びたらんか、他の種のもの如く能く小兒の心に確實に敎へ込むことを得べく、又日常の生活若くは普通の歷史よりも之を適當に說明することを得るに至るべきなり。

日本日曜學校協會にては各級の敎科書を發行す。同協會は、敎師の爲めに敎授法を敎ふるものをも發行すると同時に、日本の日曜學校をして敎授法に適ひたるものたらしめんと計りつゝあり。且つ各日曜學校が之に同盟して互に經驗を分たんことを望み居れり。

且つ其の協會に由りて萬國日曜學校同盟に接觸するに至るべし。而して日曜學校に關するものはすべて全世界に亘れる同勞者の一部分たることを思ひ、喜びと感動とを與へらるべきなり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日曜學校事業の困難の最も大なるものは、小兒をして集會せしむるの妨げ多きことなり。例へば日曜日にはボオルの競技あり、短艇の競爭あり、遠足あり、また佛敎徒も日曜學校の向ふを張り、其の他會社若くは小學校に於て兒女の日曜學校に行くを妨ぐるものあり。

其の他の困難は設備の不十分なることなり。私人の宅は狹隘にして多くの組を設くるに困難多し。故に純粹なる日曜學校と云はんよりも一般の小兒の集會なり。

更に他の困難は女學校の夏期休暇なり。或るところにては夏期中は寄宿生の代りに通學生を以て之に充つるものあり。然かし敎師の屢ば交代する每に生徒の出席せざるに至るもの少なからず。日曜學校の夏期休暇を爲すところにては、學期の終りの演習をなすことあり。兩親や朋友を招きて此の事業に興味を有せしむ。

更に此の事業に當るものの不十分なるは、日曜學校の弱點にして、失敗の由つて來るところなり。日曜學校にして其の生徒の家庭を訪問するものは少數なり。敎師の年若きこと、若くは時間なき爲め、之を爲すこと甚だ少なし。故に之に當るものは婦人傳道者若くは特別の委員なり。されど之を以て此の問題は解決せらるゝか。更に此の事業を擴張するを要せざるか。敎へることは如何に十分なりとも、若し其の次ぎの問題を忘れ居たらんには、日曜學校の事業は片手落ちと云はざる可らず。師範科にては家庭訪問を爲さゞることが日曜學校事業の大いなる缺陷なることを敎へざる可からず。現在の日曜學校にては家庭部の設けあるを聞かず、また其の價値を認め居らざるが如し。

女學生が日曜學校を敎ふる利益は著し。先づ自重心を養ひ少女時代より女子時代に移る變化の一つを來らす。且つ之によりて兒童を愛する心を起させ、兒童心理の原則を知り、將來家庭的生活の準備となること多し。又聖書研究の興味を生ぜしむ。かくて是れ基督敎熱情の發現せしむる機會となるなり。更に寄宿舍生活の技巧的なる弊を脫せしめ、男子の種種の事柄につき廣き同情を養ふに至らしむ。故に卒業後と雖も尙ほ其の興味を忘れず、自ら進んで此の事業に從ふに至ることあり。

只に敎師の利益となるのみにて、敎へらるゝ兒童に感化なくば日曜學校の事業は大いなる誤なり。然れども今日の日曜學校によりて容貌品行等の變化するは明かなる事實なり。兩親も之を喜び、巡查さへも兒童の道德上の變化につきて感謝することあり。兒童も之を喜び、假令何所に轉ずるも最初の敎師を忘れず。且つ年々敎會に加はる靑年男女のうちには日曜學校に出席せるもの多し。日曜學校の爲めに基督敎會に對する偏見も取り去らるゝこと少なからず。兩親も兒童に共に敎へを聞き家庭のうちに基督敎の感化を入るゝに至るなり。或る敎會にては年々受洗するもののうち日曜學校に出入せしもの十二人に及ぶことありといふ。また或るところにては自身は信者ならざれど幼少の頃日曜學校に出席せることある一婦人は、其の子女の爲めに己が家にて日曜學校を開かんとを

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

願ひたることとありき。小兒を教導し、之に最も高く最も良き品性を形造らしむるの感化を與ふるものは、神の永遠の事業を爲すなり。やがて其の攝理によりて日本に神の國の實現する最も力ある要素の一つとなりぬべし。（宣教五十年紀念會の席上にて演べられし大意）

實傳

望なき人の友メリイ・リイド（上）

白井胤祿

▲終歳雪を戴くヒマラヤ山の麓に於て、世に忌み嫌はれ、見るさへ身の毛もよだつ癩病者の間に其の身を投じ、山頂の雪のやうな清く氣高く敬虔なる生涯を送り、自らも同じ病に犯されながら、其の憐むべき人々の友となりて之を慰め、之を助け、之を勵ますことを天職として居る米國の一婦人メリイ、リイドの心懸けと其の事業とは大いに信仰上學ぶべき點があると思ふ。

▲リイドは米國オハヨオ州の一邑に生れ、四人の弟と四人の妹の姉である。靜かな田舍の住居で慈愛の手に育てられ、幸福に成長したのである。十六歳の頃宗教心が覺醒して、深く救主の恩寵に感激し、處女心を主に獻げた。始めて基督の恩寵が心に徹した當座から、彼の心には何か主の御役に立つために救はれたのである。若し自分が何物かを戴いたならば其れは他人にも與へる爲めであらうとの觀念が滿ちて居た。十餘年間小學教育に身を委ね、忠實に其の務めを盡し、少なからず成功したのである。

▲或る日彼は暗き死の蔭に坐つて居るやうな印度婦人の事を聞き、氣の毒な思ひに堪へず、何とかして之を助けたいとの念が朧げながら常に其の心に往來して居た。かくて彼は自分のやうなものが此のやうな高貴な事業に當ることは出來まいと危みつゝも、尙ほ遂に古への預言者の如く『我此にあり我を遣はしたまへ』と云ふに至つた。然うしてまた『往きて此民に語れ』との神の命令をも其の心に聞くに至つたのである。茲に於て彼は米國メソヂスト教會に屬する婦人外國傳道會社の重立つた人々に其の決心を打ち開けた。すると其の會社では彼の志を贊成して印度に派遣せらるゝこととなつた。彼が印度に到着したのは千八百八十四年、即ち今から二十五年前である。

▲印度に於ける彼の最初の傳道地はカウンポオルであつた。然かも著しく其の健康を害し、居を移して靜養するの必用が起つたので、彼はヒマラヤ山下の風光の佳いピソラガの地に靜養した。其の間に彼は其の地の多く癩病に苦めるものに接し、之を慰めたことである。健康に復して後また任地に歸り四年間勤勞し、ゴンダの女學校に教ふることとなつたが、其の時また甚だしく其の健康を損し到頭米國に歸つた。

▲然るに其の健康の衰へ工合が甚だ異樣なので自身も醫者も怪んで居た。其のうちに彼の右の手の食指が絕えず震ひ、且つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

痛みもあり、後には片頬の耳の近くに怪しい斑點が現はれて來た。或る日リイドは此等の兆候を考へて居た、然うして今までは夢にも思ひ寄らなかつた考へが不圖心に浮んで來た。其の考へを當て嵌めて己が心持や病の兆候などを解釋して見るとひし〳〵適中する。それで己れの病源も略ぼ見當が付き、ぞつとするやうに感じたが、倘ほ之が爲めに將來の方針をも心私に決する所あるに至つたのである。かくて第一に思ひ出されるのはヒマラヤ山の麓のことで、賴りなく苦み悶えて居る同病者の俤があり〳〵と目の前に現はれて來る。あゝ實に氣の毒である。其の心の嘆きと悲しみとは如何であろうと我が身に推し當てゝ彼らに同情し、將來は一身を獻げて彼等の友となり、其の苦みを分ち、互に慰め勵ますことが己が使命であると考へたのである。其の後紐育の名醫の診察を受けたところが、彼の病氣は失張り癩病であると斷定せられた。

▲事斯くと定まつた上は其の悲しき報知を家族のものにも告げねばならぬ。然かし何うしても之を明らさまに物語る勇氣が出ぬ。只だ妹レナに打ち開けたほかは、誰れにも語らず、再び傳道に赴くとて何氣なく別れを告げた。家族のものは彼の身の上を案じ、別れの接吻をしやうとすることを拒み「明日歸らうも知れないのですから、特別の御暇乞などしない方が別れるにも別れ易いぢやありませんか」といつた。其の心中推し量るだに涙が零れる。彼は印度に着してから手紙で其の悲しき沈默を破つた。然かも其の美しい信仰が一句一句の上に現れて居る。曰く。

「祈りつゝ熟慮いたし候末私は何事も包まず皆樣に打ち開けて申上げ、又私が此の不思議なる神の御攝理に付きて語り聞かせ置き候愛する心強き妹レナにも口止めせし事柄を皆樣に御傳へ申すやういたし候が最も賢く且つ最も親切なる所爲と覺り候。彼は私共の愛する天の父、誤を爲したまふには餘りに賢き方が、其の限りなき愛と智慧とをもて、耐え忍んで服從することを學ばしめんが爲め如何に私を人々の中より選び出し、其の準備をなさせたまへるかを皆樣に申上ぐべく候。私は特別に其の事業を爲すために備へられたることに候まゝ、世に賴りなきかの人々の仲間に入りて此の身を獻ぐるを喜びと致すべく候神が救ひと慰めと歡びとを饑ゑ渇く如くに求めむる此等の人々の爲めに私を召し出したまへる以上は、神はまた私の宿るべき隱家となり、其の中にありて凡て無くてならぬものを與へらるゝやう御約束なさるゝことと信じ候」。

▲かくて彼は印度に於けるメソヂスト教會の監督たるソオバンの推薦によりチャンダグの癩病婦人傳道會の總理に任ぜらるることゝなつた。癩病といへば人の心を寒からしむる病氣である。殊にリイドは感覺の鋭敏な方である。然るに斯る恐ろしい病に罹つたことを考へると、かの癩病者の爲めに身を獻げたアシのフランシスの事を思ひ起さゞるを得ぬ。サバチエの書いた彼の傳記の中に次の如き一節がある。「千二百五年フランシスが己が心を神に從はせ、人の爲めに身を致すや

う全く聖別せられたいと心に悶えて居たとき、一日馬に乘つて外出すると不意に癩病者に出くはした。彼は日頃此病を怖れて殆んど堪へ切れぬほどの苦い思ひするのが常であつた。それ故其の怖れに打ち勝つことが出來ず、本能的に馬を回らして他の方向に進んだ。然かし彼は直ちに基督の武士が斯る場合に其の武器を棄てゝ戰を止めやうとしたのかと自ら心に激しく責められた。茲に於て彼は再び引き返へして馬より下り、怖るべき病者に持ち合はせた金子を悉く與へ、宛から祭司にでもするやうに其の手に接吻した。此新しい勝利は彼の靈的生涯に一時期を劃した』。リイドの心持もまた之と相似て居る。

秋

辻村靖子

山路初秋

夕つく日入りぬはかりにみちのへの篶い葉しのき置ける夕露

田面初秋

小山田のわさ田穗にいてし夕よりくつれそめたる雲の峯かな

秋風入窓

いよすもる風のありかな尋ぬれは世なおききりの窓にそありける

秋のころ家なすてゝ都へうつりなむとする時

すみすてゝいなむと思へは故郷のことしの秋の風そみにしむ

紅葉狩

はつもみち尋ねくらして山陰の田ふせの庵に一夜ねにけり

旅の歌のうちに

ぬはたまのこのよ明けぬと思ひしは月夜なりけりさらしなのさと

寄山述懷

思ふこととけてはやまし山川の巖きりとほし行くかことくに

業を卒へて國へまかりぬる人のもとに

雛の子のすたちていにし朝よりねくらさひしきふるの山松

末期

かつみ女

忘れもせぬ六月二日日夜心にかゝつて居た病人が危篤と云ふ通知が病院から來た

石のやうに堅くなつた胸を押へてかけつけた病院の廊下も階子段も薄氷をふむ心地に其居室のまへまで行くとはて不思議若々しい女の笑ひ聲がする瀕死の人の枕元でどうしたことかと思つたが復思ひかへした神經の過敏になつて居る病人の安慰のため辛苦い笑ひ聲であるのだ

て障子を音せぬやうに明けて進み入ると、純白い厚い蒲團の上にやつれにやつれた病軀をよこたへた村松氏、端正な顏貌、秀でた眉目、只蒲柳の外皮を剝いたやうに蒼白くなつて露の玉なす其冷汗拭けども拭けどもにじむで來るのと苦しげな其呼吸つかひは痛ましうやせた双肩が間斷なく動くので著くて、なるほど危篤の容體かと思ひあたられたのであつた

幸にも自分の來たのを患者すぐには覺らなかつた黃八丈の薄かいまき其新らしい輕そうな袖の下からわつかに露はれて居る手の白さは一點の血の氣も通ふてないやう、まあ恐ろしい病毒は、日夜に肉を嚙み骨を削つて猶あきたらず、此俊秀有爲な青年の命を時々刻々に奪ひとらうとするか、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とても危篤しいとは此半月ほど前から諦めはして居るが三日まへに來た時の談話もできた笑顔もみたことの夢のやうに思はる。さてはよくきいて居る燈火の消ゆる時に、最後の光明を耿々と放つやうに人の命終るとき此肺を患ふる人の熱度も下降り、心地も爽いで、油斷して居ると、滉然として此世を去ると云ふことは之か知らんと思ひ合はすると、もう其痛ましい顔がどうして、見て居られやう、手帛て額のあせを押えながら

「村松さん又きましたよ今日は如何ですか……」是まで云ふたかさきは云はぬさらぬだに若し臨終のまに合はぬかと、せきにせいてかけこんで來たので、隨分もて靜めて居るつもりだが紅くなつた顔は、づむ呼吸萬一にも鋭い心に看破られて、最後の苦痛をます種になりはすまいかと、自分も舌か硬いつてしまふた。すると側から附そひの叔母さんか、ずつと患者の方によつて顔さしのぞいて「孝三おまへ奥さんが來て下すつたのだよ、わかるかへ」

我か人かの昏境にある人は、よびさまされて力なげにたゆそうな目をひらいて、じろりと私をみつめられたのでした、自分はつとめて分明と

「今日 今日日曜てすから又容體をみに來たのてよ……」

點頭いたばかり復うと〳〵と昏迷の境に入つた仰に安らかに寢て、右手には甲府から呼びよせた幼友達の看護婦某左手には病院つきの看護婦某端然とすわつて絶えずにしむ額の冷汗をふいたり乾く唇を布片て濕したりしめやかに介抱してをる掘江町とやらの伯父さんは次の四疊に控えて居らるゝ、病み初めからつきそふて因縁のふかい叔母さんは、潤む目元をさとられまいとやうに顔を背面け又は患者の容體を見たり又は見舞の人を應接はるゝ心まとひかやるせなげにみゆる。

此叔母さんのはなさるゝに、二三日まことに出來かよく、快く談話しもでき笑ひもして居つた「昨夜の二時頃から、頻に嗽咳かてゝ胸が痛む、其お手當を宿直醫員に乞ふ先生に願つて一時はをさまつたのであるが今朝八時一人の看護婦は休息し一人の看護婦は電話をかけにいつてかへつてみると假死の徵候全然があらはれて居つた夫から親戚へ電報電話をかけ、貴女にも申上げた次第であるか、甲府から兄がみえるまて、せめて有たせて置きたいと注射の力で只一縷の命脈をつないて置く〳〵とのことあゝそうであつたか痛いしい甲府よりは約六時間若かけ違はゞ親兄の顔をもみずに逝かるゝか若都合よくまに合ふと只一目にて永長の別離となるのである。きくかこときは最も關係の深い叔父さんこそ、親ともなり、又兄ともなつて、始終同じ賴母し人て居らるゝから、病人は滿足して居るとは云ひ條、慈母さんには幼くて死別れ、親父は病床に呻吟して、室の中さへ歩行くとができず兄さんも何か再びは來られぬ事情かあると云ふ其親兄は法華經を讀誦して日ことに病氣全快を祈念して居ると云ふた、至情溢るゝ日蓮上人自筆の題目は昨日送つて來たと云ふのか煤くろひて時代かついて金爛の表裝して枕元にかゝけてある其人々の心の中はまあどのやうてあるてしやうこの虚脫の容體を回復さ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せるは、たとへは枯木に花をみたいと念するやうなもの「もう藥もしひて用ゐるに及ばぬ」と云ふた醫師の言は、明に絶望を意味して居るのである、看護婦は扣へてはをるから、もう外に施す術は無い、まことに手を束ねてみてをるはかり夫でも、三時四時五時と、其まゝてつゞいて、其間夏密柑のしほり汁すこしと、アイスクリームが二匙ほど、食べられたのてあつた、是がまことの最期の水て之とあかつき時にききとれぬ程ながら微聲に「あゝ甘味しいすゞしい」と舌打してかすかに云はれた、そちこちする内六時となつた廣い病室は閑として、殆どもう人事不省の病む人の影をうすさびしく電燈は照して娑婆と立ちにくい白衣の看護婦襖の蔭には二三人もどなたかつめて居らるゝか誰も聲をだしては談話せぬ。只白百合の芬香とノーゼッハーレンの芬香が激しいカンフルの香をかきけすほどにうちかをる枕下にある玻璃盃に三四尾放つた金魚か今朝は誰れも水をかへてやる人がなかつたか酸素の欠乏に堪へ得ぬか上水をのんて喩喁して居るのか耳たつてきこえるばかり其花こそは河井氏の贈りものてある、女子青年會の河井みち子女史か自分に深い〱同情をよせる日ごろも屢々病者を訪問して下さるが、今日を夫ほどの容體と知らずに、此美しい花束をもつて病をみにきて與られたのてした無論直にはかへられたのてす。自分は其花をよいほどの所に置いて「是は河井さんがもつて來て下すつたのてすよ、綺麗でしやう」

と云へばすこし目をあけて見て滿足そうに微笑まれたカンフルの注射をしたのは、蓋今朝から一箇づゝ五度ほどだと是も患者自らか此時分明いはれたのてあつた。すこしうとうとゝ眠らるゝかと、みると時々は覺醒するかの光のない眼を大きくあけてみつめることが二三度あつた、其内に枕元にすはつた看護婦がけたゝましう身を起すと、同時に脚部の方に控えて居た看護婦が忍び聲にしかも力の籠つた音聲て、

「どうか皆さん………只今てございます」

はつと思つていざりよると、途端に隔の襖のかげからまろび入るやうにかけこんだ叔母さんか、すがりついて、

「孝三！」

「お道理です。が、叔母さんどうぞ靜かにどうぞ靜止に。御臨終を亂しては不可」

せぐり上げる暗涙をのんて、辛うして云ふと叔母さんは聲を飲んて泣き倒れた甲府からつけた看護婦はあふるゝ涙を拭ひこゝ、眠つたやうな眼瞼を撫でる、齶骨を上へと合せて靑さめた唇をとぢさする、ところへ來た白衣の醫員か、病院附きの看護婦と共にかけつけて、徐々打診する、聽診する、まことに之は形式ばかり脈搏も斷れた四肢も著しう、厥冷したばかり氣息を大くひいたのが咽喉の中てきこえた。醫員は、叔母さん、掘江町の伯父さん、及自分の顏をみて、

「どうてしやう、未だ御親戚もおみえにならぬやうてすが今一回注射しますか？」

親戚二人、看護婦二人、自分と合せて五人は、只顏を見あはせて息をのんだ、痛ましは死者、もう死者と云はれねばなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ、其身體を中にして、誰も沈默した。
堀江町さんがまづ云はれた、
「駄目でござりましやうな、注射を願つた所が三十分とはもたぬてすから、でも其れはあまりあつけない、是なりにして仕舞つては、本店も諦めきれまいと思ふ、ならうことならせめて九時まで命脈がもてる者ならば………」
「いや夫は云はせないそんな我儘は云はせない。之ほどに手當をしてもう誰も何とも云ふ筈がないのと、奥さん那麼なのでしやう」？こちらを顧て相談される。
自分はまことにさつしいつたが何の考へる必要があらう卒爾と答へて
「夫は私の申すべきでは無いのですが、もういつそ此まゝにした方お幸福てあらうと私は思ひます。」
斷末魔の苦痛を再みるか身と切るよりつらくて情なくも云ひきつた。
「私どもゝそう存じます」看護婦二人もことばぞへして呉れたので、醫員も心をえて立つてしまつた。嗚呼もう萬事休すてある。
昨日までも今までも甚しい耳敏くて枕もとて人の云ふことは自分等のも看護婦も片言隻語もきゝ洩すまいとするこちらも亦氣立をつけて決して忌憚なくは物云はなかつたので臨終の最期のと、いみはゞからず、云ふやうになつて、もしか其罪なさゝうな、自己の運命も知らぬ顔な、無心な綺麗な體軀を見て、誰泣かぬものがあらう、比較にしか確として居るのは伯父さん一人、女四人は屍體にとりすがつて、心行く許忍び音に泣いたのである。
品行方正、學力優等で、郷里の中學を卒業し、まさに此七月の高等學校試驗に應じやうとする準備中、冀望の多い抱負の大な、此好箇の少年は、享年はづかに十九歲て、無限の恨を呑んて逝つてしまつた。幾度魂よばひしても魂はかへらぬ、もだえこがれて天を怨んでも天は對へぬ。可愛らしいと云はうか無漸と云はうか七つて母を喪ふて、母の慈愛を味はふことはないと日ころは云ふた其人が、日夜懷思慕ふて居つた亡い母をやの跡を追ふておくつきの苔の莚を俱にすべく、逝つて仕舞ふたが、三月から六月まて、二月の病のとこに、どうか一度は快復したいと思ふて、手當は至らぬ限も無かつた、夫れは富豪の子弟だけ看護に於いて心のこりは無かつたと云へば云ふもの丶、はた自分の限りある生命と露ほども知らず、又知らせもせず、いかに死生を怖れぬたちでもさぞ自己の運命を、知りたかつたてあらう、助かりたかつたてあらう。生あれば死ありと云ふものゝ、生れてこゝに十九年前途多望の身てありながら死ぬるは遺憾てあつたらう、また悲哀くもあつたてあらう。
あづかつてから足かけ三年、我子のやうに思ふた人の不慮ぬ病にとりつかれて、病院の人になつて以來見る度ごとに羸瘦がまし、熱度は九度を決して下らず脾瘠さへてきてきて、たのみ少くなつて行く、最後に病院長の宣告に、「到底回復は期し難い」と云ひ渡された時は、夫から自宅へかへる

のに、足の踏所も無かつた。この人をわが家に預かつたのは一昨年の秋の暮にはのいさゝ叢竹が秋風にさやくころてあつたので、夫からこなた三年こし霜をく晨でも月の夜でも、すそ短の小倉の袴、インキ壺をふら下げて黒毛繻子の本包をかかへて規則正しく通學なすつた、今年三月三日の節句に雛段の前に一所にお膳に向ひながら

「ねへ村松さん、七月の入學試驗には、美事合格したら、夏は小田原の私の別邸へおいてなさいよ。箱根へも案内します、新鮮しいお魚もたんと上げる。」

こんな約束したのに學校の受驗どころか旅行ところか博覽會もとうとう見ず不忍池畔の不夜城も知らず花もみねば青葉の匂ひもしらず、山時鳥の血を吐いて病のとこについてから箱根も富士もよそにして、淸涼しい世界に旅立つとは……これ何と云ふ薄命か。

忘れはせぬ、三月二十四日、春季皇靈祭の日が發病の日であつた。自分は試驗最中の多忙はしさに、はた又田舍へ歸省する準備に、日もこれたらずとわくわくして、前夜はさらに知らなかつた、同室の人に後できけば、例にかはらず登校して、かへつて夕餐の箸をとるまでたえてかはることは無かつたそうなが夕餐後すこし氣分がわるいとて、徒歩で根岸の鶯溪醫院にいつて、

高松老醫に診察して貰つて、かへると即に就蓐したそうであるが、恐らくは其ときに一度咯血したのではあるまいか、なぜその時に云ふては呉れぬ、自分の注意の足りなかつたのと、深く自ら責むるとともと、なぜそう遠慮をして呉れたと、かつは怨めしうも思ふたのであつた、

其朝は早起の人の、めづらしく床をはなれぬので、自分はふしとに會釋なくいつて、きけば寒冒てはあるまいか、すこし熱もあるやうてとすこし起きかへつて答へらるゝ、

「夫ならそつとしておいてなさい、まとにかく檢温しましやう」

檢温器を挿せての十五分間、自分は下へいつて一寸人にあつて、さて二階へ上つてみると、驚いた、

檢温器は枕下の机の側に置いてあつて、安臥てをるはづの人は、床の間に片ひざかけてうづくまつて、右の手に手帛とつて、口を掩ふて居らるゝではないか、其又白の手帛に、花のやうな鮮血が、滴る許浸潤んて居るてはないか、

枕をならへて居た朋友もこの騒をつゆしらず早朝どこかへかてかけたので殘る一人が物音に驚いて愕起の身をがばと起して一瞥るや否こは抑いかにと許途方にくれてをる所であつた、とに角身體を扶起して、徐に枕につかしめて檢温してみると四十度に上つて居る驚いた自分よりも目早く認め「やあ之は大變だ」と呟いたとはあとでの談話し應急の手當として、さて成るべくは口をきかせたくないが枕下にさしよつて望みをきくと、少し身體を欹てゝ其鮮血で色ました唇を動して昨夜からの經過をことばすくなにはなして「國許へ電報をかけるか又は堀江町へ電話をかけて、叔父をよびよせて戴きとうございます……」辛うじて云はれた、音聲も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手も著しう戰顫へて居つたのです夫だけきけばもう澤山あとは「私が確に計らふて上げるしつかりなさいよ略血したと云ふて必らずこわい病氣とは限りませんよ。氣と落ちつけて安心していらつしやい」
と我ながらまざまざしく云つた
何の之か安心して居られやう、驚愕恐怖れて當人はさしも沈着な大膽な人か、色を失ふたのも道理至極、平氣な顏をよそふてたしかそうにして居る自分も、實は氣は轉倒してしまつたのであつたものと、
あとを家人にしつかりたのんで、自分は車にとびのつて、入院の手つゝきをする醫師に相談する等と其日は時間も知らなかつたのです
いくらとめても一々會釋し一々丁寧に禮をのへて釣臺にのつたその俤その音聲、たゞ眼華の如くちらつき潮のやうにわいて、一々魂を銷するたねだ、嗚呼其ときの一刹那、死ぬとはさらに思はなんだか、是ては當分二三年不憫や勉强は廢止ねばならぬだから、恁思ふたは我のみか丁度人車てかけつけられた、叔父村松甚三氏もみるとすなはち思はれたそうてあつた、
我ながら悔い思ふ、神ならぬ身とは云へ、大切な人の子を預りながら、何故今すこし周到に、注意して、よく其平素の健康狀態にきをつけて、過度の勉强をとめなかつたか、すこし衰弱へて居るとみたら、特に營養物をなぜとらせなかつたか、今になつて、かへらぬことを悲歎くのは、自分の愚昏を標榜やうな耻かしさはさて置いて、よく其親に其兄に合はす面がそもあらうか、自分は此座をよう立たぬ、折節人は側を去つてしつまりかへつた居室の中、茶無地の絹布の袷を着て白い衾によこたはり、白い毛布とかけてある其屍の脉をしかと押へて、自分は心中にひそかに契ふた、
「後れ先たつのは世の中の習ひと云ひます貴郎こんなになつたのはこれまでの運命と諦らめて下さい誰でもついには斯うなるのです私もやがてあとから行つて、復の對面はきつとします、」
恁云つてはふり落つる涙と拭ふた、村松さん靈があれば必ずきいて下さつたらうと私は思ふ、
よすからついて居たいのであるが、家には上下五六人ののが、私のかへるのを待ちにまつて居るのである明日もあれはと云ふので親戚の三四人のかたに別れをつげて一人自宅へかへつてくると、果してみな玄關さきへとんてでた、誰一人か村松氏の容體と案ぜぬものがあらうまづ太郎が口をひらいて、
「村松さんどうてした？」
自分はどかりと柱によつてすはつたまゝ
「とうとういけなかつた此七時五十五分て………」
先へかへつた吉田氏は云ふに及ばす
みな目と目とみあはせたばかり
衣がへをし終つた時がもう午後十一時、さしも雜沓して居た池の畔も、人どほりが稀になつて、河漢のかげが柳の蔭か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、淡く白くひいて居る、凉かぜ通ふ樓上に、一燈影またたく樓上に、學生四人我子二人、みな生前にちなみのあるもの、殘らすとよひあつめて、こまかに終焉の前後をはなした、みなつゝしんできいて呉れたのであつた、語り了つて誰も答へる人がない、只蛙の友よふこえがころころと聞ゆるばかり何と思ひかへしても只夢としか思はれぬ。此思ひいての記を草するのも今は主ない机の上て、みれば手すれた光澤もあり、小刀のきずもあり、引たしつきの樫の木の机は、大な膝はもうつかへて、毎に窮屈と感して居られたそうであつた、行李に充てた幾千冊の書籍は、皆其趣味と熱誠と、未來の抱負は現はしたもの、せめてはすこし侮らはしい所か、疎ましい行爲のかたみてもあつて呉れよ、すこし此思ひよのとめたい諦めたいと思ふてもよみのこした書の種類、かきのこした書籍の一字一句、一つも忽なものはない。
寧此本此机目にふれぬ所にかたつけやうかと思ふがさて、これなくては、何かまたあなたの遺物とみる物があるか、涙にぬるゝ目を拭ふてみはたす虚空は、さみたれて又こよひも雨になつた、盛んの書窓の燈火は、牲々とかげが、うちしめつて。（終）

他人の生涯を幸福ならしめんとするものは、自ら之を享有すること能はず。

（バアサイ）

こゝろの花

▲實業の日本十月號に苦い顏して世を渡るは一生の損なりと題して新渡戸稲造氏は「不幸や艱難やを悉く一と纏となし、花やかなる風呂敷に包み、世間に見事な目さめる如き美はしき風呂敷だなと見せ喜ばしめながら、其中にある重荷を獨りて輕げに荷ひ」、いつでもコロ〳〵愉快氣にやつて居るべきことが說いてある。其中に余が最も偉いと感心した一婦人と見だしを置いて次の物語が記してある。「友人などから偉かつた人のことを聞かれるとき、僕は北海道で見た人のことを語る。この人は四十前後の婦人で、夫は極めて下級の官吏で月給二十四五圓を貰ひ、小兒が四五人もあり、且夫は肺病であつたため三度の食事さへも自由ではかつた。斯る不幸の境遇に居りながら婦人は曾て苦しい顏色をしたことがない。乳兒を加へて四人の小供を女手一人で育て上げ、不治の病に苦しんだ夫を多年一日の如く看護し、備さに辛酸を嘗めたのであるが、愚痴一言もいはぬ。常にニコ〳〵して居た。物に感ぜぬ馬鹿かといへばなか〳〵さうでない。夫が亡つた時の態度は實に烈婦の趣があつた。夫を喪ふた後は心配の餘か看護の疲れか、程なく重症にかゝり醫師も匙を投げて了つた。いよ〳〵危篤と醫者から宣告された時、この婦人は平生信賴して居る人を枕頭に呼び寄せ、死後一切のことを依托し、寸毫だも狼狽し煩悶する樣が見えなかつた眼中には一滴の涙もな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く、目と唇とには相變らず春の如き笑を含んで居た。信頼された人が僕の許に來てあなたは彼女を偉い々々といはれたが私は窃に褒め過ぎた言葉と思ふて居た。が今日病院で彼女の最期の健氣な態度を見始めて眞に彼女の偉いことが分り、心から感服したと云ふたことがある。幸ひ此婦人は今も尙壯健である」。

▲救世軍の中佐山室軍平氏は社會事業と基督敎の關係を論ずるうちに、同志社在學時代の事を語られた。氏は築地活版所の職工であつたが、基督敎を信じて以來學問の欲望が盛んになつて、遂に同志社に入學することとなつた。然るに學資が少しもない。入學試驗は通過したが、如何にして自らを支へやうかと云ふ困難があつた。斷食もし、僅かばかりの燒芋などを噛ぢつて餓を淩いだこともあるさうである。然るに其の時上級生の一人が此の事情を聞き緣も由緒もないのであるが、山室氏の月謝を拂つて呉れ、常に大に其の志を勵ました。山室氏は其の學生が斯く助力して呉れるのは自分の學資に餘裕があるからだとばかり思つて居た。然るに其の人が學校を出る前病後の身を靜かに御苑に運んで、山室氏を助力した事情を物語つた。彼は辛うじて自らを支へる位の學資しか無かつたのであるが、朝早く誰にも知らせずに牛乳を配達し其の收益を以て山室氏の學資としたのである。斯くとは夢にも知らなかつた山室氏は非常に驚き喜んだ。爾來此の一事が常に彼を刺戟し、鼓舞して居るのである。彼は志の鈍るときにも之を思ひ出だし大いに奮起し、氣の弛むときにも之によりて引き緊ることが出來ると云つて居る。其の人は即ち吉田清太郎氏である。

聖書の研究

ピリピ書解釋（三）

柏井園

（第一章のつゞき）

二十一我が爲には生くるはキリスト、死ぬるは益なればなり。二十二されど肉體にありて生くること我が業の果ならは何れを擇ぶべきか我之を知らず。二十三我れ兩の間に介れり。我が願は去つてキリストと偕に居らんことなり、これ遙に勝れるなり。二十四されど肉體に生ること汝等の爲に更に必要なり。

我が爲には生くるはキリスト我が生命の源キリストにありと云ふ意味にあらず爰は生命の本源や主義を云へるにあらずして生活の目的皷吹力盡くキリストより發することを云ふ。トマス、アケムピス曰く「一箇の目標を有し總ての事物を一箇の主義に歸せしめ總ての事物を一つの光に照らして見る人の心はたしかに定まる所あり、神にありて安することをも得るなり」と。借りて以てパウロの言の註解となすことを得べし◎死ぬるは益なればなり何故なるや、二十三節にある如くキリストと偕に在る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことを得ればなり。◎我が業の果ならば原文の解釋人によりて異なれども穩當と思はるる解釋にしたがひて斯く譯せり、我が肉體にありて生くることによりて我事業を結ぶこととならばと云ふ意なるべし◎兩の間に介まれり兩の垣の間にある狹き道に立てる如き樣なり◎去づて錨を拔きもしくはテントを撤するに用ふ、ヘンリイ・ドラモンド一人の友人の死せし樣を記して『歎息もなく、手慣れし道具を片づけて更に優れる業となさんとて他に行きしに似たり』と云ひしが、パウロの心事之に似たるものあり◎キリストと偕に在ると云ふは死に對するクリスチャンの信念を表せる最も美しき語なり。コリント後書二〇七に『身に居るうちは主より離れ居ることを知れり』と云へり。此の世に在りてもキリストと偕に在り得すと云ふにあらず。然れども肉を離れて靈の世界に入りて後は、一層深き意味に於てキリストと偕に在るを得るなり。コリント前書十五章にはパウロは死の狀態を眠りに比しキリストの來現の時目醒むることを云へり。强ひて兩者の調和を求むる必要なし。然れどもキリストと偕に在ると云ふ方我等の心に近きを覺ふ。

二十五之を信ずるが故に我知る、信仰に於て汝等の進步と喜あらんがため留まらん、汝等總てとともに留らんことを。

二十六我れ再び汝等と偕に在ることによりて汝等の誇りキリストイエスの中に我に因りて增し加はらん。

進步と喜あらんがため　或る學者は信仰に於ての一句を喜にのみかけ、汝等の進步と信仰に於ける喜と解すれども、進步と喜の二つにかゝるをよしとす。眞の信仰には進步あり又喜あるものなり◎留まらんとは世に存留することとなり、たゞ世の活くるのみならず、ピリピ人と偕にありて其の友となり力となるを得べけん◎汝等の誇り、誇るべき事なり理由なり。パウロ釋されて再びピリピ人と相見る日あらば、これ即ち神の慈愛の活ける事實を見る所以にして誇るべき理由增し加はるなり。しかも其の誇りたるやキリストなる空氣に包まれその中に生長する誇りにてあるなり。故にキリストイエスの中にと云ふ。且つ此の誇りの直接の原因は矢張パウロの事によるなり故に我に因りてと云ふなり。此處は直譯すればキリストイエスに於て我に於てとあり。

パウロはその當時放免の日の近きを期し居りしと此の數節及ひピレモン書第二十二節によりて明なり。古來の傳說に據り、又テモテ前後書をパウロの作とすれば、彼は一度自由の身となりて東西に傳道し、ピリピにも行きたりと見ゆ(テモテ前一〇三)

二十七　汝等イエス・キリストの福音に適ひて行ふべし、此れ我が來りて汝等を見るときも又離れて汝等の狀態を聞くときも汝等が固く立ち一の靈と一心を以て福音の信仰の爲に戰ひ、何事にも敵に驚かされざらんがためなり、それ彼等には滅亡の徵、汝等には救の徵にして神より出づ。二十八キリストの爲にはたゞ彼を信ずることのみならず　彼の爲に苦むことをも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賜ひたればなり。

二十七節に行ふべしと譯しあるは頗る不十分なる譯にして原語は「市民たるの義務を果たせ」と云ふ意なり、英語にも適當の譯語なしと見へて別の語を用ひあり。蓋し羅馬の市民たることは當時の人には非常なる名譽にして、自重して體面を維持し又團體の一員たる務に忠なる精神こもり居れり。信者は一個の教會の一員にして且つ世界的なる神の國の一公民たる精神を以て立たざるべからず。ヴヰンセントは此の處ストア哲學思想の痕を見るべしと云へり。ストア學者は世界はゼウス神の都なりと說くことを好みたり◎一の靈と一の心、あまり嚴しく區別する必要なけれども、靈は靈妙なる生命の源、神の靈に繋がる方面を云ひ、心は喜怒哀樂の情の有る處を指せり◎福音の信仰の爲に戰ひ、ライトフウトの解釋によれば「福音の信仰とともに戰ひ」と譯すべし。即ち信仰を人に擬し信仰を戰友として戰ふとなりと解す。愉快なる解釋なれども英譯及びヴイゼッケル譯ともに爲にと譯しある故之に從ふ、敵に驚さる、驚さると云ふ漢字に馬ある如く希臘の原語も馬の驚くを云へるより來れり◎苦むことをも賜ひたればなり、愛し尊ぶものの爲に苦むことは一の特權なり與へらるる賜なり。

三十 汝等が我に於て之も見、又今有りと聞くと同じ戰汝等に在り。

戰始に鬪技場に於ける仕合を云ひし言なるが其外の戰と苦悶にも用ひらる。パウロがピリピにて逢ひたる苦み（使徒行傳十六章に見ゆ）はピリピの信者の親しく見たる所、今羅馬にて逢ひつつある艱難も亦彼等の聞く所なり。此の一節の位置非常に面白し。先づ鼓舞奬勵の言を述べて後、簡勁なる此の一節を加ふ、潑剌たるパウロの人物氣象躍如たるを覺ふ。

聖書の日課（續き）

第十三週、

一、約翰傳十二の一―十一、　一婦人基督を認識す
二、馬太傳二十六の六―十三、　基督一婦人の愛を認識す
三、約翰傳十二の十二―十九、　基督王として首府に入る
四、提摩太前書の十一―十六、　諸王の王の光榮
五、約翰傳十二の二十―三十六、　一粒の麥
六、馬可傳四の一―二十、　一粒の麥
七、約翰傳十二の三十七―五十、　基督に於ける信及び不信

第十四週、

一　約翰傳十三の一―十一、　基督弟子の足を濯ふ
二、約翰傳十三の十二―十七、　奉仕の說明
三、約翰傳十三の十八―三十、　基督の一人の弟子の不忠實
四、詩篇四十一、　善き人民の敵
五、約翰傳十三の三十一―三十八、　新しき誡命
六、羅馬書十二の九―二十一、　愛の法律
七、約翰第一書四の七―二十一、　神の愛

第十五週（三の疑問）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一、約翰傳十四の一―七　我等に途を示せ
二、以賽亞書三十五◎　潔齋の途、
三、約翰傳十四の八―十五、　我等に天父を示せ
四、馬太傳六の五―十五、　天に在す人
五、約翰傳十四の十六―二十四、　我等に基督自身を現せ
六、羅馬書八の一―十三、　靈の生命
七、約翰傳十四の二十五―終、　慰むる者即ち父と子の靈

第十六週、
一、約翰傳、十五の一・八、　眞の葡萄樹
二、約翰一書二の二十五―二十九、　神に宿る
三、約翰傳十五の九―十七　愛の誡命
四、約翰一書三の十三―二十四　愛の試鍊
五、約翰傳十五の十八―二十七　世を嫌厭す
六、羅馬書七の十四―二十五、　世に勝つ
七、哥林多前書三の十―十四、　愛の根據

女子青年界

基督教學校以外の學生の間に於ける基督教の事業

ミス、イー、シー、フヰリツプス

（開教五十年祝會に於て朗讀せられし文章の節錄なり）

此の題目の下に述ぶべき事業は三項に分つことを得べし。（一）基督教主義の寄宿舍（二）基督教女子青年會（三）以上二種の事業と關係なき聖書研究會

（一）女子青年の爲に設けたる寄宿舍の數は報告に接したる限に於て九個處なり、東京七、長崎一、宮崎一なり。東京に於ては女子青年會に屬するもの二、一は牛込納戸町一は小石川區安藤坂に在り。收容し得べき人數は三十九人と三十三人にて他の基督教の寄宿舍と異なる點は外國婦人の舍内に住まず全く日本人の監理にかかることとこれより。バプテスト教會の女子學寮は今年三月の設立にかかり、三十人を收容し得べく。同仁教會のミッションの經營にかかるものは小石川老松町にあり。聖公會に屬するもの神田麴町小石川の三個處に各一より。其の外神田三崎町に米國聖公會ミッシオンの寄宿舍一より。平河町に聖マリヤ館あり十六人を容るべし。雜司谷に余の監せる曉星寮あり二十六人を容るべし。

長崎にあるものは聖公會の一會員の設立する所にして高等女學校學生の爲に設く小規模なり。宮崎にあるものはアメリカン、ボオドの宣教師の建つる所にも二十五人を容るべし。

此等の寄宿舍は各特色あれども何れも家族的生活を重んず。大抵寄宿舍の費用は學生の拂ふ舍費を以て支辨せらる。又聖書研究會及び教會に出席する等の事は任意となすもの多し。然れども學生は好んで之等の會合に出席す。或は學生にして小兒の爲に日曜學校を開けるものあり。

（二）基督教女子青年會　其の特色の共通なるものを擧ぐれば（イ）青年會は何れも靈的生活に於て相互に助く事を以て根本の主義となす。親密を計る爲に宗教上の會合の外に社交的會合をなす。（ハ）　青年會は主として學生自身之が責任を負

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ。（二）或る慈善若くは傳道の事業を會員によりて營なまる。

會員は正會員と準會員に分つ。正會員は信者より成り準會員は道を學ばんとする未信者より成る。集會は毎月或は二三ケ月に一度開かるる總會と毎週開かるる聖書研究會とより成る。

女子靑年會の中最も盛大なるは津田梅子の經營にかかる女子英學塾にして學生總數百六十人の中靑年會に加入せる者百五十人、聖書研究會に出席する者百二十人、上級生が日曜學校其他にて敎へつつある學生の數百八十餘人に上る。

地方にて盛なる女子靑年會は盛岡にあるもの六十人の會員を有し、德島と函館にあるもの亦成功せり。

女子靑年會は毎年夏期講習會を開く、本年は三十二個の學校を代表せる百七十人の來會者ありたり。此の講習會に於て基督敎主義の學校に在學せる學生と普通の學校に在學せる學生との接觸によりて雙方大なる利益を得たりと云ふ。

（三）聖書研究會　學生寄宿舍及び靑年會に屬せざる聖書研究會は多くは宣敎師の家に於て開かるるもの多し。故に詳に其の狀況を知るは困難なり、或る地方に於ては英語、音樂、料理法を敎授する組を設けたる宣敎師もあり。此等の方法は寧ろ學生と相近づくの方法となることあらん。斯の如き手段を用いずして日曜日の聖書研究會に百十二人の學生を集め得たりとの報告をなせる宣敎師もあり。此の種の事業の困難の一は學生か學科に急がしくして他の會合に來る時間乏しきにあり。又學校及び敎師が學生が基督敎の敎育を受くる事を好まざる傾向もあり。之は必ずしも基督敎を厭ふにあらず學校以外の敎育を受けしめる必要なしと云ふ意見より出ずるもの少からず。此の種の困難を除く一の方法は宣敎師がよく學校の生活や敎科の實狀に通じ學校の當局者をして宗敎家のなす所は學校の敎育を相戾らず反つて之を援くる事を知らしむるに在り。

基督敎の文學（節略）

バウカス

外國婦人にして日本の基督敎文學に成長に貢献したる人に向つて其の動機を質すならば皆一樣に、切なる需用を感ずるより來りたる旨を答ふべし。ズン●ペッテン夫人の聖書學校に用ふる著書、チヨオ孃の日曜學校敎科書ハウ孃の幼稚園の唱歌ジ●オンス夫人とグレン孃の日曜學校の唱歌、チヤッペル夫人の母の爲の著書ピンフォルド夫人の料理法の書物、スペンサア孃の傳記及び物語り、ホラアド孃の小供の爲の雜誌、ロルマン孃の幼稚園用の書籍及びカアド、バラアド孃のトラクト其の外之なり。此等は皆著者自身の必要より著されたるものなるが故に、出版者は、是等の書物は一般の人により認識せられず又注文も受けずとも著者より注文を受くることだは確實なるを知れり。

「婦人新報」「少年新報」等は婦人禁酒會の發行に係る。「明治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の女子」は基督教女子青年會の機關なり。ミラア夫人の發行せる「喜びの音」或る團體の機關に非ず又著者や自身專用の爲にもあらずして日本に於ける兒童に基督教の感化を及ぼさん爲め長き年月の間繼續せる愛の盡力なり。

余の知る限りにては日本に於て文學的事業の爲に全き時間を用ひつつある婦人の宣教師はディッキン孃と余と二人あるのみ。我等が「常盤」の發行を始めし時は婦人によりて婦人の爲に書かれたる雜誌たらんことを期せしに、婦人のみにては力足らず男子に乞ふて之を訂正し或は全く書き改むるの必要を見出せし時は第一の失望なりき。第二の失望は讀者が彼等の爲に特に書かれたる事を了解する力の足らざる事を發見せし時なりき。今や婦人の文士婦人の讀者ともに增加しつつあるは感謝の至りなり。「常盤は既に十二年を重ね之とともに書籍、トラクト、カアドの發行も增加して昨年中我等の手より出版せる文學二百萬頁、カアド一百萬枚以上に上りたり。此等は何れも或る形に於て聖書の音信を傳ふるものなり。

女子青年會祈禱週

（十一月十四日より二十日まで）

萬國基督教女子青年會同盟は十一月十四日より二十日を祈禱の週となし、種々の題目につきて祈禱することとなり居れり。今其の題目を左に揭ぐ。

▲十一月十四日（日曜日）祈禱及び感謝。

『神に榮を歸す』『彼に感謝す』（路加傳十七〇十八、十六）
『我汝に謝す』（路加傳十〇二十一、約翰傳十一〇四十一）
『汝の名の榮を顯はせ』（約翰傳十二〇二十八）

讚美、昨年中に於ける神の恩惠につき、其の愛につき、祈の應驗につき、尙ほ更に來るべき祝福につき。

祈禱、我等が神の御意に委せ、我等の求め又は喜ぶるよりも一層豐かに答へらるる神を信ぜんが爲め。

▲十一月十五日（月曜日）密室の祈禱。

『嚴密なる室に入り』（馬太傳六〇六）
『祈りせんとて密かに行けり』（馬太傳十四〇廿三、馬可傳一〇三十五、路加傳五〇十六）

讚美、天父は隱微たるに見、我等の語るところに耳を傾けらるることにつき。

祈禱、我等が密室の祈りの力と責任とを認め、忠實に基督と共に會合することを勉むる爲め。

又且つ下の諸國の爲めは感謝し且つ祈るべし。

北西弗利加――エジプト。タニス。

南亞弗利加――ケイプコロニイ。ナタル。オレシジ、フリイ、ステイト。ツランスヷアル。

西亞弗利加――ゴールド、コオスト、コロニイ。ラゴス。

英領東亞弗利加。

▲十一月十六日（土曜日）共同の祈禱。

『二人心を合せは』『二人三人』（馬太傳十八〇十九、廿）
『彼祈りの爲めペテロ、ヨハオ、及びヤコブを伴へり』（路加傳九〇二十八）

讚美、共同の祈禱の特權につき、且つ靑年會に於ては之を爲すの機會多きことにつき。

祈禱、我等が此の機會を正しく用ふる爲め他の人々の爲めに決して妨げられず、恐怖の捕れより脫する爲め。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又次の諸國の爲めに感謝し且つ祈るべし。
亞米利加――加奈太。合衆國。西印度地方。
南亞米利加――アルゼンチン共和國。ブラジル。英領ギニア。蘭領ギニア。

▲十一月十七日（水曜日）天父に對する祈り。
「汝ら祈るときは父よと云ふべし」（路加傳十一の二）
「父よ」「聖き父よ」「義しき父よ」（約翰傳十七〇一、五、十一、廿四、廿五）

讃美、神が自らを其の子耶蘇基督に由りて父と現はされしことにつき、且つすべての眞理は其の父たることに含蓄することにつき。

祈禱、我等が父として彼を尊崇め、愛し、我等の信賴を現實にし、其の限りなく温柔なるに益す肖らんが爲め。

又次の諸國の爲めに感謝し且つ祈るべし。
亞細亞――印度。同殖民地。蘭領印度。支那。日本。
（日本につきては東京に二つの女子寄宿舍の設けられしこと、聖書研究會は今年中約百人の來會者ありしこと、夏期講習會及び各地の靈的情態の進步と、傳道の効果益す擧ること等を感謝すること。更に官立學校及び非基督敎主義の學校の生徒に基督敎の傳へられんが爲め、基督敎主義の學校の生徒が已が特權を一層現實にし、基督敎的生活を實驗せんが爲め、基督敎主義の寄宿舍に居る學生の爲め、家庭を離れて道德上の危險多き首府に遊學せる女學生の爲め祈ること。尙ほ寄宿舍を建つる土地を買ひ入るる資金、其の建物の資金、及び內國の青年會事業の資金の爲め、年若き女子の爲めに盡力するものが聖靈の恩化に俗せんが爲め、其の心中に不滿を感じて眞理を求めつつある女子の爲め、又其の求むることを知らざるもの、若くは無頓着なるものの爲めに祈ること。聖書の研究に由りて十字架に死して復活せる救主として基督を信ずるに至らんが爲めに祈ること。日本に於ける傳道開始五十年に凡ての年若き婦人の深き精神上の祝福の年たらんが爲めに祈ること。）
其の外亞細亞土耳古。シリヤ。小亞細亞。

▲十一月十八日（木曜日）信仰の祈り。
「信じて祈るべし」（馬太傳廿一〇二十二）
「我は常に汝の聽き給ふを知る」（約翰傳十一〇四十二）

讃美、信仰に由れる休息につき、信仰に由りて世に勝つことにつき。

祈禱、主が我等の信仰を增し給はんが爲め、如何なる時にも如何なる境遇にも彼を信ずるを得んが爲め、我等が祈りの答へを求め、例令我等の期待する方法に於て答へなきも尙ほ之あるを認識せんが爲め。

又次きの諸國の爲めに感謝し且つ祈るべし。
アウスタラシア――ニユウ、サウス、ウエルス。クインスランド。南アウスタラリア。ヴイクトリア。西アウスタラリア。
ニユウジイランド――北島。南島。
タスマニア

▲十一月十九日（金曜日）基督に居る祈り。
「我に在りて求めよ」（約翰傳十七〇七）
「我は汝の裡に」「父よ我願ふ」（約翰傳十七〇廿一、廿四）

讃美、我等の生活が我等の神及び救主なる基督と共なることにつき。

祈禱、自己若くは罪惡が我等と基督との間に來らざる爲め、我等が基督の裡に居らんが爲め、其の言が我等のうちに居らんが爲め。

又次の諸國の爲めに感謝し且つ祈るべし。
歐羅巴――白耳義。和蘭。丁抹。フヒンランド。露西亞。佛蘭西。獨逸。大英國及び愛蘭土。諾威。瑞典。瑞西。

▲十一月二十日(土曜日)絶えざる祈り。
「常に祈るべし」(路加傳廿一〇卅六、十八〇一—八、十一〇五—十)
「昧爽に耶蘇早く祈れり」(馬可傳一〇七五)
日中(約翰傳六の十一)
午後(馬太傳四〇二十三)
夕(路加傳廿二〇四十一—四十四〇約翰傳十七〇)
「彼は終夜祈れり」(路加傳六〇十二)
讃美、神常に我等の叫びに耳傾けたまふことにつき。
祈禱、此の週を以て特別なる祈りの時を終ることとなく、常に祈りの大氣の中に生活し得る爲め。
又次ぎの諸國の爲めに感謝し且つ祈るべし。
歐羅巴——墺太利。ボヘミヤ。匈牙利。ブルガリヤ。ジブラルタル。グリシヤ。以太利。シシリイ。マルタ。葡萄牙。西班牙。土耳古。

○大阪プール女學校青年會

本年穴守に開かれたる第四回夏期講習會に當會代表者として出席したる一人の教師と生徒に事故あり吉本教師それに代りて凡てを報告せり有益なる事多し。
日曜學校　主の召を崇れる四十餘名の者五ヶ所に開かるる日曜學校に教ふ兒童總數大凡三百五十名。
慰問部　生徒教師に吉凶あるに際し物品書翰を贈り或は訪問す又諸所の紡績工女の病者を見舞ひて福音を述ぶ工女中熱心なる信者となりたる主の教への廣く擴まらむことを祈る、
慈善會　毎金曜日午後三時より裁縫編物等の手工を爲す殊に近頃は三一教會建設資の幾分を補くる爲め諸種の製品に忙かし。
祈禱部　毎週二回火金曜日に祈禱會を開き青年會日曜學校等の爲めに祈る當部も追々進歩するを見る毎月一回開かるる青年會にもと本會々員たりし本校卒業生の出席するありて時には感深き談を試むることあり。

○横濱共立女學校

九月十六日事務執行委員會を青年會室に開く左の件を協議す
一、傳道部と慈善部と合併するに就き其名稱を「傳道部」となす事
二、投票の結果傳道部委員左の如く決定す。委員長、齊藤たか子、書記、小山すゑ子、會計、伊藤みちゑ
三、青年會の一事業として校中婢僕の文學を解せざる者に毎夜時間を限りて教授する事
右は役員之に當り十月一日より開始すべき事
四、各部の顧問に小異動あり左の如し。傳道部、ミス、トレセー、片桐先生、矯風部、湯淺先生、吉田先生、祈禱會部、深間内先生、三浦先生、文學部、ミス、ルーミス、阪野先生、

○ネスヴェル女子青年會

同青年會にては此程會員會友の非常なる熱心によりて十日間に二萬二千圓餘の資金を募集し得たりといふ。

○埃及の婦人

埃及に在住して親しく見聞せる一米國婦人の云ふところによれば、同地の婦人は殆んど無教育にして、令孃時代は全く無しといふべき有様なり。十歳より十二歳位にて己に花嫁となる風習あり。女學校はコプチック宗、加特力宗、プロテスタント宗及び回教等にて設立せられたるもの少なからず。政府よりはカイロに二つの女學校を設く。就中最も古く最も大いなるはカイロにある米國ミッションの女學校にて生徒九百人、寄宿生九十人、其の中回教徒の女子四十名ありといふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

The Young Womens Christian Association Union of Japan

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Mrs. R. Araki. Osaka
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koharu Nakajima	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss F. D. Denton, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Wynne Willson, Nogoya.
	Miss Charlotte De Forrest, Kobe.

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Tokyo Secretary
Headquarters :— 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督敎女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。
一、日本基督敎女子青年會は青年女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
一、日本基督敎女子青年會中央委員左の如し。

委員長 井深花子
副委員長 岡見慶子
記錄書記 エ、ジー、ルイス
會計 フイシヤー
萬國基督敎女子青年會同盟委員 河井道子
萬國學生基督敎同盟會委員 宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　サラ、エリス

地方在住委員
大阪 ケー、ツリスツラム　京都 佐伯小糸
京都 デントン　名古屋 ウインウイルソン
廣島 エヌ、ジー、ゲインス　神戸 デフヲレスト
大阪 荒木幸子

日本女子基督敎青年會幹事 エー、シー、マクドナルド
同副幹事 エム、エル、マシウ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十二年十月十五日發行 (每月一回十五日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. VI. *November 1909.* *No. IX.*

Editorials:—

An Autumn Message

Haw to approach the Divine Life

The Semi-Centennial Conference

Mr. Niwa's Return

Biography:—

Mary Reed, the Friend of Lepers — T. S.

Leading Articles:—

Charity Work — Mrs. Chiyo Kozaki

Sunday School Work — Miss C. De Forrest

Work in non-Christian Schools — Miss Gladys Philipps

Christian Literature — Miss G. Baucus

Bible Study:—

Philippians (III) — Mr. En Kashiwai

Literary Article:—

The Last Hour

Association Notes:—

(東京神田美土代町 三秀舎印行)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA